

現存する望楼型天守の構成について

The composition of the existing borogata Tenshu (watch tower style)

○茂木大資¹, 小島陽子²*Daisuke Mogi¹, Yoko Kojima²

Abstract: Borogata Tenshu (watch tower style) originated from buildings with hip and gable structure topped with tower, and over the course of several decades they have developed into five-story high-rise buildings such as Himeji Tenshu. This study focuses on the existing Borogata Tenshu (watch tower style) of Inuyama, Hikone, Himeji, Matsue, Maruoka, and Kochi Tenshu, and analyzes their plan and elevational structures.

1. はじめに

天守^[注1]は、入母屋屋根の建物に物見の望楼を載せ、廻縁を設けたことにはじまるとされる^[1]。その天守草創期の形式を持つ天守は望楼型天守と呼ばれ、その定義は、基部に入母屋破風を有することである。基部と望楼部の巨大化により姫路城大天守のような5重の高層建築にまで発展した。そのような望楼型天守に着目し、その平面構成や立面構成を考察することを本稿の目的とする。本稿では、現存する望楼型天守である犬山(1596頃)、彦根(1606)、姫路(1608)、松江(1611頃)、丸岡(不明)、高知城(1747)の6棟を対象とする。なお、分析には修理工事報告書に掲載された図面を用いた。

2. 望楼型天守の平面構成

対象6天守の平面について、入側と身舎の構成には、2つのタイプが見られた。1つは基部の四方に一間から二間幅の入側を設け、その内側に身舎を設けるタイプである。2つ目は基部の四方に入側を設けないタイプである。前者は犬山、彦根、姫路、松江、丸岡城であり、後者は高知城である。高知城は南北側に一間幅の入側を設ける。次に柱割について2つのタイプが見られた。下層からの柱割が異なる階が、基部、望楼部の切り替わる階と同じタイプと、異なるタイプである。前者は犬山、彦根、姫路、丸岡であり、後者は松江と高知である。最後に、柱間寸法に関しては3タイプ見られた。1つ目は、基部と望楼部が切り替わる階で新たな柱間が用いられる天守、2つ目は基部と望楼部が切り替わる階と異なる階で新たな柱間が用いられる天守、3つ目は地上一階から最上層まで同様の柱間を用いる天守である。1つ目は犬山、2つ目は姫路、高知、3つ目は彦根、松江、丸岡である。姫路は最上層のみ、高知は5階以降で異なる柱間寸法を用いている。

3. 望楼型天守の立面構成

屋根裏階は対象とした天守の内、彦根を除く5つの

天守にある。その中で、桁行方向の両面に破風の間を有する天守と有していない天守がある。前者は、犬山、姫路、松江、丸岡であり、後者は高知である。最後に基部と望楼部の妻の向きとの関係である。基部の妻の向きと望楼部の妻の向きが矩折のものと平行の2つのタイプが見られた。前者は、犬山と高知城、後者は彦根、姫路、松江、丸岡城である。

4. まとめ

以上望楼型6天守について、平面および立面の構成について分析を行った。いずれの構成についても、高知城天守は、他の現存天守と構成が異なることが明らかとなった。高知城天守は山内一豊が築城した初代天守を模して1747年に造られた。新天守の造営にも古手法を用いたと考えられる。基部と望楼部の妻の向きの関係が矩折であり、外観からは古式と見える。しかし、その構造には新たな手法が見られる。本稿では、高知城の特異性が際立つ結果となったが、その意味について十分に考察することが出来なかった。今後は、現存天守の建築構成の分析を進め、天守の見え方や歴史的背景をあわせて考察していきたい。

5. 参考文献および注

- [1]金澤雄記, 「望楼型天守の考察 — 基部と望楼部について —」, 日本建築学会大会学術講演梗概集, pp.91-92, 2005
 [2] 大山市教育委員会, 国宝犬山城天守保存修理工事報告書, 西濃印刷株式会社, 令和2年3月
 [3] 姫路市, 国宝姫路城大天守修理工事報告書, 有限会社真陽社, 昭和35年6月
 [4] 滋賀県教育委員会, 国宝彦根城天守・附櫓及び多門櫓修理工事報告書, 株式会社便利堂, 平成27年3月
 [5] 重要文化財松江城天守修理事務所, 重要文化財松江城天守修理工事報告書, 彰国社, 昭和30年3月
 [6] 重要文化財丸岡城天守修理委員会, 重要文化財丸岡城天守修理工事報告書, 新光社, 昭和30年3月
 [7] 高知県教育委員会総務課, 重要文化財高知城天守修理工事報告書, 日本写真印刷株式会社, 昭和32年5月
 [注1]天守という言葉が史上初めて使用されたのは「細川両家記」に見える撰津伊丹城の天守である。

表1 天守の規模及び断面図、平面図一覧表

天守名 (築城年)	犬山 (天守未年頃)	彦根 (慶長11年)	姫路 (慶長13年)	松江 (慶長16年頃)	丸岡 (不明)	高知 (延享4年)
何重何階/高さ(尺)	3重4階地下2階/59.37	3重3階地下1階/51.26	5重6階地下2階/103.94	4重5階地下1階/74.05	2重3階/41.36	4重6階/61.38
基部と望楼部の関係	矩折	平行	平行	平行	平行	矩折
断面図 (S=1/1000)						
屋根裏階 平面図 (S=1/1000)		屋根裏階なし				
柱割の変わる階 の平面図 (S=1/1000)						
1階平面図 (S=1/1000)						